

待機児童と保育所アクセシビリティ—東京都文京区の事例—

河端瑞貴

東京大学 空間情報科学研究センター

連絡先: <mizuki@csis.u-tokyo.ac.jp>

- (1) **動機:** 超少子高齢化に直面している日本において、仕事と子育ての両立支援は喫緊の政策課題となっている。しかし、近年、保育所に入りたくても入れない待機児童が都市部を中心に爆発的に増加しており、深刻な社会問題となっている。待機児童が発生している背景には、保育所の「量」の不足に加えて、通園・通勤が可能な場所に入所できないという「空間」のミスマッチが生じていることが考えられる。
- (2) **アプローチ:** 本研究の対象地域は、多数の待機児童が報告されている東京都文京区とする。地理情報システム(GIS)を活用して、保育所の「需給量」だけでなく、「空間」のミスマッチも示せる保育所アクセシビリティを、国勢調査の基本単位区および児童の年齢別に計算し、分析する。この保育所アクセシビリティは、通園限界圏内の保育所の需給率(供給量÷需要量)を表す。したがって、保育所アクセシビリティが1未満(供給不足)の場合に、保育所需給の空間ミスマッチが生じていると解釈する。
- (3) **結果:** 2009年のデータを用いて分析した結果、文京区内には、保育所アクセシビリティが1未満(供給不足)のエリアが多数存在し、アクセシビリティが0.25未満と著しく低いエリアも存在することがわか

った。また、保育所需給の空間ミスマッチの度合いは、区内のエリアや児童の年齢により差があることがわかった。保育所需給の空間ミスマッチが随所に存在することが、待機児童発生の一因になっていると考えられる。

- (4) **意義:** 「待機児童ゼロ作戦」(2001年閣議決定)や、その後の「新待機児童ゼロ作戦」(2008年策定)にみられるように、待機児童対策は国の重要な政策課題となっている。GISを用いた本研究の手法と結果は、保育所を整備すべきエリアの選定や、保育所整備の評価に役立つ。待機児童対策においては、保育所需給の「空間ミスマッチの解消」というアプローチも有効であると考えられる。
- (5) **使用したデータ:**
- 『文京の統計』、『ぶんきょう(文の京)の社会福祉』(文京区)
 - 年度別年齢別新旧基準別待機児童数(文京区役所)
 - 2009年道路網データ(ESRI社)
 - 2005年国勢調査基本単位区(調査区)境界データ(総務省統計局)
- (6) **謝辞:**
- 本研究は、科研費(20710111)の助成を受けたものである。

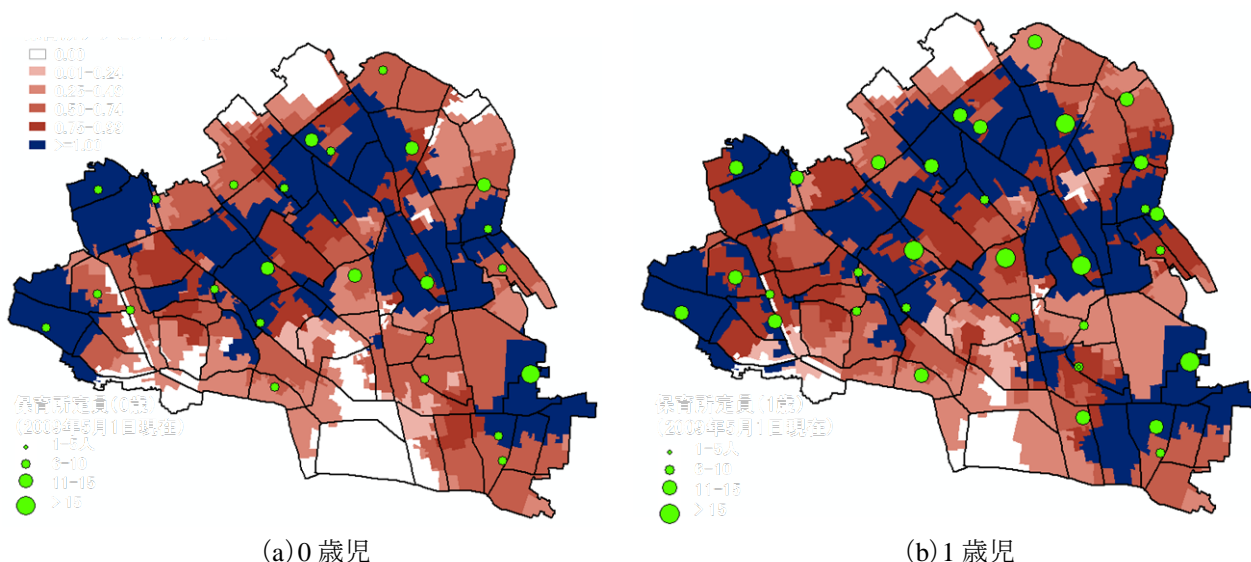


図1: 文京区の(認可・認証)保育所アクセシビリティ(通園限界域 750 m)
保育所アクセシビリティが1未満(供給不足)の地域が多いことがわかる。アクセシビリティが0.25未満と著しく低い地域も存在する。人口(需要)が多いにも関わらず、アクセシビリティの低いエリアは、保育所整備の必要性が高いと考えられる。